にかほの夏の風物詩

～夏祭り三夜ものがたり～

▲弩級スターマイン
～第60回日本海花火フェスティバルin象潟～

▲300人盆踊り～にかほ夏まつり2008～

8月14日からの3日間、夏祭り三夜ものがたりが開催されました。14日の「にかほ夏まつり2008」は潮風公園で、15日の「金浦湾頭まつり」は湾頭ひろばで、16日の「第60回日本海花火フェスティバルin象潟」は象潟海水浴場で、天候が心配されましたが3日間とも予定どおり開催され、大勢の市民が夏の風物詩の花火や盆踊りなどを楽しみました。

今年で合併後3回目となる三夜ものがたりは、市民の間にも定着してきたようで「竿燈と花火を同時に見られるのが得した感じがする」「花火を3日も続けて見られてうれしい」など好評のようでした。

（表紙の写真は「金浦湾頭まつり」です）

森林浴をしながら楽しむ

～名水スポット『元滝伏流水』～

▼元滝伏流水

環境省が6月に選定した「平成の名水百選」に本市から『元滝伏流水』と『獅子ヶ鼻湿原の出壺』が選ばれています。このほど日本経済新聞が百選の中から「自然を感じつつ涼を求めるのにおすすめの名水スポット」を専門家に聞き、ランク付けをしたところ『元滝伏流水』が全国で第2位に選ばれました。（平成20年7月19日付日経プラスワン）

同百選は名水の保護と継承を目的としていますが、訪れる価値のあるところも多く、『元滝伏流水』は「昭和の百選に選ばれなかったのが不思議」「森林浴をしながらのアプローチも魅力的」などと評価されました。

奥の細道を世界遺産に

～第21回奥の細道にかほ市象潟サミット～

▶講演する上野洋三氏

▼サミット総会の様子

8月1日と2日、第21回「奥の細道」にかほ市象潟サミットが開催されました。同サミットは「奥の細道」ゆかりの39の自治体や団体等で構成され、芭蕉の業績を顕彰し地域活性化を図ることを目的に、毎年自治体の持ち回りで開催されています。

総会後の情報交換では「奥の細道」の世界遺産を目指し、活動してはどうかなどの提言がありました。続いて芭蕉研究の第一人者・上野洋三氏（大阪女子大名誉教授）による記念講演が行われ、象潟で詠んだ芭蕉の句の解説とともに「暗唱できるくらい読んで味わってほしい」と熱くその魅力が語られました。

次回は福井県敦賀市で開催の予定です。

ふるさとを思う気持ちから

～版本『おくのほそ道』・『猿蓑』など寄贈～

▲江戸後期に刊行された版本『おくのほそ道』

7月17日、象潟会（大平温会長）が象潟郷土資料館に『おくのほそ道』や芭蕉とその門人たちによる作品集『猿蓑』などの版本4冊を寄贈しました。同資料館では「芭蕉ゆかりの地として必要な資料であり、多くの方々に芭蕉を知っていただくために活用したい」と早速展示しています。

象潟会は首都圏に在住する旧象潟町出身者の集まりで、11月に旧三町のふるさと会が合併する予定です。象潟会では「松尾芭蕉の奥の細道は、にかほ市を代表する文化遺産であり、歴史的価値のある江戸後期刊の『おくのほそ道』を、より多くの方々に見ていただきたい」として今回の寄贈となりました。

▲副市長に寄贈本を手渡す大平会長（右）

現代の芭蕉たちが一句

～第25回奥の細道象潟全国俳句大会～

▼倉田紘文氏による選評と講演

8月9日、第25回奥の細道象潟全国俳句大会が象潟シーサイドホテルで開催されました。全国から一般、中学生、小学生の3部門に計4,319句の応募があり、各部門で特選3句、秀逸15句、佳作30句が選ばれました。

大会では小・中学生の部の選評と表彰に続き、倉田紘文氏（俳人協会理事）により一般の部の選評を交えた講演などが行われました。

特選のうち市内の方々の作品は左記のとおりです。

（敬称略）

特選

【小学生の部】

・激流を　さからいのぼる　サケの親
　伊東　康　（上浜小6年）

【中学生の部】

・汗をかき　今日の部活も　達成感
　渡辺　有紀（仁賀保中1年）